

○議長 辻本 一夫君

次に4番、萩原議員の一般質問を許します。萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

4番、萩原です。通告書に従いまして質問してまいります。

件名1、循環型社会の推進について。

今年の4月、プラスチック資源循環法が施行されました。この法律の施行に伴い、現在多くの自治体では容器包装リサイクル法に基づき、要らなくなったプラスチック製容器包装を資源として分別・回収・リサイクルしていますが、これからは、これまで燃えるごみとして処理されてきた要らなくなったプラスチック製品についても自治体で効率的な分別などの仕組みを設けることになりました。この中で、市区町村の責務はプラスチック使用製品廃棄物の分別の基準を策定し、その基準に従って適正に分別・排出されるよう、住民に周知するよう努めなければならないことになっています。そこでお尋ねいたします。

要旨1、今まで燃えるごみとして処理されてきたプラスチック使用製品廃棄物の分別収集は、今後どのようなようになるのかお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

執行部の答弁を求めます。環境住宅課長。

○環境住宅課長 小田 武文君

それでは、お答えさせていただきます。

海洋プラスチック問題、気候変動問題、諸外国の廃棄物、輸入規制強化等への対応を契機として、国内におけるプラスチックの資源循環を一層促進する重要性が高まっております。このような中、プラスチックごみの削減とリサイクルの促進を目的とした、プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律、略してプラスチック資源循環法が令和3年6月4日参院本会議で全会一致で可決、成立いたしました。

これは、これまで食品トレーや卵や弁当のパックといったプラスチック製容器包装のみが分別収集が行われリサイクルが進められていたものを、プラスチック使用製品廃棄物、略して製品プラスチックと言いますが、これについても仕組みを定め、リサイクルを促進しようとするものでございます。具体的には、小売業者や飲食店などにはワンウェイプラスチックと呼ばれる使い捨てのスプーンやストローなど、製品プラスチックの提供の削減が求められます。また、家庭から排出されるおもちゃやハンガー、洗面器、プランターなどの製品プラスチックについても市町村が分別収集、再商品化に努めることとされました。

このことから、お隣の北九州市ではモデル地区を定めまして、7月から8月にかけてプラスチック資源一括回収実証事業が実施されました。これは、ごみの出しやすさや効率的な回収、再資

令和4年第3回定例会（萩原洋子議員一般質問）

源化の仕組みを検討し、今後の分別収集の取組に生かすために実施されたものでございます。これを受けまして遠賀・中間地域広域行政事務組合では北九州市の実証事業の結果を教えていただき、今後、製品プラスチックをどのように分別収集を実施しリサイクルするののかについて検討することとしております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

北九州市の結果を踏まえ今後検討をされるというお話ですが、何か課題等はあるのですか。お尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 小田 武文君

新たに製品プラスチックを分別収集しましてリサイクルしていくには、課題も多いのではないかと考えておるところでございます。

考えられる点としまして、1つには収集した製品プラスチックを中間市にございますリサイクルプラザで分別するのは、今の設備の状況では難しいと思われま。また保管場所につきましても、こちらも不足しそうでございます。2つ目に、現在、皆さんにお使いいただいておりますプラスチック製容器包装用の指定袋につきましても、これは作業がしやすいように裂けやすい素材にしておるため、これにそのままプラスチック製品も一緒に入れ収集をすることになると、袋の材質そのものから変えないといけなくなると思ひます。

このように、いずれにしましても北九州市の実証事業の取組結果が示されましたら、広域行政事務組合と構成市町でしっかりと検討してまいりたいと思ひます。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

今もですね、プラスチックのごみ収集場所に違反シールを貼られてですね、置きっ放しになってるごみっていうのが結構見受けられます。今後この仕組みが入ってきた場合にですね、また住民の方が混乱する可能性もありますので、その辺をしっかりと混乱のないように分別収集の方法を検討してほしいと思ひます。

要旨2、プラスチックごみ削減の取組についてお尋ねしてまいります。

今年の3月議会で、川上議員がマイクロプラスチック問題を取り上げられました。町はこの問題に対して、「私たちができることとして、日頃からマイバッグやマイボトルなど繰り返し使えてごみを減らすものを使うこと。」と答弁されました。このような中、幾つかの自治体の庁舎や小中学校、公共施設などにウォーターサーバーを設置することでペットボトルの購入を控え、プラスチックごみの削減に取り組む動きがあります。使い捨てペットボトルなどのプラスチックごみによる海洋や大気汚染が国際問題になっております。

海に面している芦屋町こそ、マイボトルの推進やペットボトルを使わない社会の実現を目指す必要があるのではないかと考えますが、その点についてお伺いいたします。

○議長 辻本 一夫君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 小田 武文君

環境問題はまさに今、私たちが喫緊に取り組まなければならない課題であります。

こうした中、マイボトル持参の取組を促進し、ペットボトルなどの使い捨てプラスチック製品の使用抑制やプラスチックごみの削減を推進することを目的に、幾つかの自治体で市内の体育施設や学校施設にウォーターサーバーを設置する動きがございます。これは夏場の熱中症なども懸念されておりますが、熱中症予防に欠かせないのは水分補給であることから市内の体育施設をはじめ、小中学校へウォーターサーバーを設置することで児童生徒の水分補給にも役立てようとするものでございます。これによりマイボトルへの給水を推進し、一層のプラスチックごみ削減につながるというものでございますが、海や川を有する芦屋町においてマイクロプラスチックへとつながるプラスチックごみを削減しようとする様々な取組につきましては、とても大切なことであると考えております。

しかしながら、当該施設にウォーターサーバーを設置することにつきましては、施設の所管課の考え方もあろうかと思います。また、町内の公的施設の飲料の自動販売機のうち、まちづくり支援自販機と呼ばれるものが17台ございます。この売上げの2割が寄附金として町に入る仕組みとなっておりまして、芦屋海浜公園の遊具の整備費用などに充てられております。プラスチックごみを削減することは大切なことですが、ウォーターサーバーを設置することでまちづくり支援自販機の売上げが一方で大きく減少するようなことがあっても、それもまた困ります。

このようなことから、プラスチックごみを削減するためにも、環境住宅課としてはまずは役場のような公共施設の自動販売機において、メーカーの協力を得ながらペットボトル飲料の割合を減らし紙パック飲料の割合を増やしていただくことにより、プラスチックごみを削減する機運づくりに取り組んでいきたいと考えております。また、併せましてマイボトルの普及の取組につきましても、周知を図るなど取り組んでいきたいと考えております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

今の町のお考えは理解しました。公共施設など、今設置されている自動販売機にペットボトルはかなり多く入っております。それがどの程度、紙等にですね、変わっていくのか、機運をつくっていかれるという話です。マイボトルのほうも推進して周知していくということですので、今後どのように展開されていくのかしっかりと注視していきたいと思えます。

次に6月12日、ラブアース・クリーンアップで町内の海岸清掃が行われました。海岸にはポイ捨てされた使い捨てのペットボトルやプラスチックごみが落ち、これが雨風によって海岸に流れていき、マイクロプラスチックとなっていくとされます。3月議会で町はこの問題に対して、「今後もラブアース・クリーンアップや町内一斉清掃といった事業についても実施していきたい。」と答弁されました。しかしながら循環型社会の推進では、清掃はもちろんですがプラスチックごみ自体を減らしていく取組も重要になってまいります。現在、芦屋港はレジャー港化が進み、今後も多くの観光客が見込まれると思えます。ここで使い捨てペットボトルなどがポイ捨てされると、すぐに海に流れていってしまいます。

そこで、レジャー港化におけるプラスチックごみ削減の配慮はどのようになっているのかお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室事業推進係長。

○芦屋港活性化推進室事業推進係長 井上 裕一君

それでは、芦屋港湾の取組につきまして回答させていただきます。

レジャー港化におきましては新たに整備する施設もございますので、SDGsやカーボンニュートラルといった循環型社会実現に向けた対応が必要と考えております。現在、海浜公園を含んだ一体的なエリアを運営する組織の形成に向け取り組んでいるところではございますが、組織運営の理念となりますコンセプトを今検討しております。

検討中の案の中には海の恵みに感謝し自然環境に配慮した取組として、例えばエリア内の施設では天然素材の使用をはじめ、再生可能資源となる紙やバイオマスのプラスチック、非石油系洗剤の使用などのほか環境保全活動の推進、また、子供たちが海と水の大切さを学ぶ機会の提供など、そういったものを考えているところでございます。具体的な取組につきましては運営組織ができてからとなりますが、このように芦屋港のレジャー港化におきましては自然環境に配慮した運営理念を掲げていくことと考えております。

令和4年第3回定例会（萩原洋子議員一般質問）

なお、このコンセプトにつきましては今後、芦屋港活性化推進委員会の委員の皆様などの意見を聞きながら決定していく予定でございますので、検討中の案でありますことを御理解いただければと思っております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

どうしてもですね、自動販売機で飲み残しを考えたらペットボトルを購入しがちですが、環境のことを考えれば紙パックにするとかですね、少し手間はかかりますけどマイボトルに移し替えるとか、環境保護のため住民1人1人がやっぱり意識していかないといけないんだと思います。そのために町が率先してその姿勢を見せるっていうことが大事なんじゃないかなと思いますので、ぜひともお取組のほうよろしくお願いいたします。

件名2、児童生徒の健やかな発達と通学かばんの重さについて。

平成30年9月6日、文部科学省は授業に用いる教科書やその他の教材、学用品や体育用品が過重になることで身体の健やかな発達に影響が生じかねないことなどの懸念や、保護者等から配慮を求める声が寄せられていることから、各学校における実際の工夫例を通達しています。しかし、現在も児童生徒や保護者から「通学かばんが重い。」との声を聞きます。

そこで要旨1、教育委員会は通学かばんの重さについて、どのようなお考えがあるのかお尋ねします。

○議長 辻本 一夫君

学校教育課長。

○学校教育課長 木本 拓也君

教科書のページ数は年々増え続け、一般社団法人教科書協会によりますと各社平均で2005年度～2020年度までの15年間で1.7倍になっています。全ての教科でページ数が増えている上、英語や道徳が必修化し教科も増えています。その状況を踏まえて平成30年9月6日、文科省の事務連絡が発出されたところでございますが、この内容につきましては町内の小中学校へも周知し、各学校において適切に運用されているものと認識しております。

学校へ確認したところ、各学校では学校に置いてよい学用品などを知らせ、登下校時に携行させているのは家庭学習で使用する教科書やノートなど最低限度のものに限って行っているということです。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

小学校でもですね、小中学校でも児童生徒の携行品が過重にならないよう、いろいろなお取組をされているというのは先生方からもお伺いしております。実際、「大丈夫ですよ。重くないです。」っていうふうに答える児童生徒もいることは事実なんです。ただ一概に、通学かばんが常に重いとも言えません、だから。しかしながら、児童生徒の体重や自宅から学校までの距離、あと部活動の状況など1人1人の状況は違うんです。米国の小児学会はバックパック、いわゆるリュック——背負うものですね、の重さは体重の10～20%を超えてはならないと勧告しています。

そこで私は小学1年生の児童の御父兄に、昨日までの5日間のランドセルや水筒などの携行品の重さを量っていただきました。平均で6.8キロありました。これは御本人の体重の20%を超えています。また、数人の中学生の通学かばんも6.2キロ～8.2キロあったと聞いています。御父兄からは、「通学かばんが重いことで、ふらつきや転倒の事故、肩凝りや腰痛、姿勢のゆがみによる骨の変形などが心配です。」というお声が届いております。

通学かばんの重さの対策を考える上で、まずは通学かばんの重さとそれに関する心身のトラブルはないのか、私も数人しか聞いてませんのでできれば調査を行っていただきたいと思うのですが、その点はいかがでしょうか。

○議長 辻本 一夫君

学校教育課長。

○学校教育課長 木本 拓也君

今、御指摘いただいた点につきましては各学校へ通知をし、確認をしていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

確認というのはどういうことですか。

○議長 辻本 一夫君

学校教育課長。

○学校教育課長 木本 拓也君

今、議員から御指摘いただいた学用品に関するかばんの重さ、それに伴う体の具合ですね、それについての調査ということでございます。

令和4年第3回定例会（萩原洋子議員一般質問）

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

調査いただけるってことで、よかったです。安心しました。どうぞよろしく願いいたします。

次にですね、要旨2、児童生徒の通学かばんの重さ対策についてに参ります。

通学かばんの重さ対策の1つとして、御父兄からも「デジタル教科書の活用はどうか。」というような声が届いております。数日前にもニュースで取り上げられていました。

分かる範囲で、デジタル教科書の導入に向け、今の現状についてお答えできる範囲でお願いいたします。

○議長 辻本 一夫君

学校教育課長。

○学校教育課長 木本 拓也君

平成30年度の学習指導要領の改訂により、条件を整えばデジタル教科書の使用が可能になっております。ただ、現在デジタル教科書につきましては試行段階ということで、現在、芦屋町では小学5年生～中学3年生までに英語、それと小学5年生～中学3年生までは国語、この2教科についてデジタル教科書の実証実験をしているところでございます。山鹿小学校につきましては、国語につきましては全学年入れて実証実験をしているという状況でございます。

これにつきましては、文部科学省では令和6年度からのデジタル教科書の導入を見据えた、今、動きをしております、全国的に実証実験を行っている段階でございます。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

町内の小学校でも試験的にやられてるということなので、これ1つ情報としてよかったなと思います。ただ、国としても令和6年度ってということでニュースでも出てましたし、すぐに全部ということでもないんで、この通学かばんの重さの対策はデジタル教科書ですぐに解決していくかって言ったら、そこもなかなか今のお話だと難しいのかなと思いました。

そこでですね、ただ、かばんの重さ、痛みの訴えっていうのがあるのも事実で、何らかの対策が必要ではないかと思えます。そこで提案したいのが、中学校の通学かばんのリニューアルです。生徒からはですね、「かばんのベルトが肩に食い込み、痛みや肩凝りがある。」っていう訴えがございます。で、ちょっと卒業生の生徒のかばんをちょっと借りてきました。私も何となくいつも

令和4年第3回定例会（萩原洋子議員一般質問）

見てきて、そんなにしっかり見たことなかったんですけども、実はこのかばんのここが非常に細いんですね。綱がここ細いです、非常に。分かりますかね。クッションなんかがないもので、ここにクッションがないもので、やっぱり7キロ～8キロ、実際今日も試験があつてと思うんですけども、それでも「7キロぐらいあります。」っていう御連絡があつてます。これがですね、肩にかなり食い込むんですね。

で、最近はですね、昔はこういう感じでからってる子が多かつたんですけど、やっぱこうなるとかなりこういうふうに斜めになる。で、最近はこうやって背中に両サイドで背負う子を時々、最近見かけるんです。そしたらですね、これ私も実は昨日7キロ～8キロを中に入れて背負って、実際歩いてみました。そしたら、ここをリングに挟むだけなので、もうずるんずるんなつてですね、背負うのも背負いづらいですし、ぐらんぐらんしまして、もう20分ぐらい歩いたらですね、非常にもう肩も痛いしふらつくしですね、やっぱり子供たちがやっぱ「これ、きついです。」っていうのは本当に、自分がやってみて思ったっていう次第でございます。

それでですね、最近は何県でもリュックタイプのかばんを採用してる中学校があるんだっていうふうにご子供たちから聞きました。町でも子供たちの発達を考え、中学校の通学かばんのリニューアルをぜひとも検討していただきたいんですが、その点いかがでしょうか。

○議長 辻本 一夫君

学校教育課長。

○学校教育課長 木本 拓也君

議員の御指摘はごもっとも、というふうに認識をしております。

中学校に確認をしたところ、中学校では来年度の令和5年度から通学かばんをリニューアルする方向で準備を進めているということでございます。現在は、採用候補となるサンプルを取り寄せているという状況と聞いております。今回のリニューアルでは議員御指摘のとおり、リュックタイプにするということで伺っております。学校ではこれらのサンプルを取り寄せた後、PTA等の御意見を参考にしながら最終的には決めていきたいというふうに考えておりますので、学校での検討経過を見守っていききたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

PTAのほうでしっかり協議していただけたということなんですが、ぜひとも子供たちにも意見を聞いていただきたいと思います。やっぱり、「どこの町のがかっこいい。」とかですね、「あそこは英語だ。」とかですね、やっぱり子供たちはちょっとでもいいものを持ちたいっていう気



令和4年第3回定例会（萩原洋子議員一般質問）

持ちはありますので、ぜひともよろしく願いいたします。

次にですね、御提案するのが、かばんが楽になったと言っても重たいは重たいんです。これは変わりません。そこでですね、次の御提案は中学校の自転車通学エリアの拡大です。

通学かばんの重さが適正であればですね、歩くことはいいんです。でも、置き勉などをしてでもですね、今20分ほどかかります。私も言われて歩いてみました、中学校まで。7～8キロの荷物をですね、やっぱりこの暑い中本当に大変です。生徒の健やかな発達を望めるか、その状態で。今後、調査等もされるということです。中学校の自転車通学エリアの拡大、ぜひとも検討していただけないでしょうか。御答弁を求めます。

○議長 辻本 一夫君

教育長。

○教育長 三柵 賢二君

この点については、私どもだけでは当然決めることはできません。学校長が最終的な決断をもって決めるということになりますので、今後、議員の御提案があったということで学校長と私ども教育委員会で協議をしながら、また先生方の御意見、当然子供たちの考えや意見も聞きながら、その点については少し話を進めていきたいなど。そのことによって、すぐに自転車通学の範囲が拡大するということはお約束できませんけども、必要なことじゃないのかなと思ってますので、議題に乗せたいなというふうに思います。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

前向きな答弁、本当にありがとうございます。

最後にですね、小学校のランドセルの重さ対策についてです。

もう、一生懸命考えました。昨年、今年と、夏場になると「ランドセルが重い。」という相談が入るんです。去年も夏、学校教育課長に何度も相談に上がりました。学校にもお伺いして、電話も何回もかけました。で、改善してるのかなと冬場すると、やっぱりこの夏場になると御相談が入るんです。

それで私はコロナによるマスク生活、あと厳しい暑さによる水分補給などの水筒がですね、通学かばんの重さに負荷をかけるんじゃないかと考えました。熱中症対策で小まめな水分補給も必要なんですけど、下校時間まで足りないとの声を聞きます。しかし、熱中症を心配して大きな水筒を持たせると、ランドセルが重くなるといった事態が発生しています。昨年度確認したところですね、職員室のほうでお茶なんかを準備していただいたっていう話もお伺いしております。小学

校3校ともしていただいていますよね。

ただ、私は児童がね、気軽に飲み水を補充できる環境を学校に整備してはどうかと御提案したいです。これはランドセルの重さ対策、あと熱中症対策、さらに御多忙な先生、そして先ほど前半でも脱プラの話をしましたけど中学校は自販機を置いてますよね。この辺、きっと教育長は脱プラしていただけるんじゃないかなあ、さっきうなずいてましたので。思います。

最後、教育長ですね、この点についてどうお考えなのかちょっとお伺いできますでしょうか。よろしくお願ひいたします。

○議長 辻本 一夫君

教育長。

○教育長 三柵 賢二君

自販機の件でちょっと今、私誤解してるんですが、ペットボトルをなくそうという話の続き——ということじゃなさそうですね。自販機を小学校に設置したらどうかという……すいません。

大変失礼ですが、反問権ではございませんので。申し訳ないです。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

例えばですね、やっぱり御家族がその水道の水をですね、水筒に入れるのをやっぱり気になされる御家族も多いんですよ。例えば蛇口に浄水器をちょっとつけていただくとかウオーターサーバーを置くとか、方法が分からないんですけど、いろんな方法あると思うんですけど、もう大きな水筒を持ってこなくてもいいようにしてあげると、少しかばんも重くなくなるんじゃないかっていうような御提案をさせていただきたいんです。

で、中学校については自販機がありますので、これ助かってるっていう声もあるんです。ただ、そこにやっぱりペットボトルも入ってると思うので、そこも少しお考えいただきたいっていう話を今して——これもう別個の話として捉えてください。すいません、申し訳ございません。

○議長 辻本 一夫君

教育長。

○教育長 三柵 賢二君

水筒、確かに大きな水筒を持ってきている子供さん、もうこれ小学生だけじゃなくて中学生もいます。で、蛇口に浄水器をつけるってのはちょっと難しいのかな。また、冷水機等々ウオーターサーバーの話が出てましたけども予算の問題であるとか、冷水機に至っては今、どちらかという方向にあります。

したがって、水筒を減らすためには1番有効になってくるのは町の補助が出る自販機を小中学

令和4年第3回定例会（萩原洋子議員一般質問）

校に置いて、中学校においては先ほどペットボトルの問題がありますので、世界陸上選手権なんかを見てると紙のペットボトルで、こう飲んでるっていうシーンをよく見かけましたので、その辺、業者さんのいろんなお考えもあるでしょうから、できるだけ私自身もペットボトルを持ってこずに水筒を持ってきてますので、そういった点については議員の御提案のような形で検討できるところは検討して行って、これも学校長、また保護者の方の意見であるとかその辺について十分調査した上で、ある程度方向性を見いだしていきたいなというふうに考えております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

今日、前向きな御回答いただきまして本当に安心しました。

ぜひ子供たちがですね、眉間にしわを寄せながら朝歩いてる子を見かけるんです。やっぱり子供たちが明るい笑顔で行ってるような姿を今後見ていきたいので、ぜひともしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

以上で、私の質問を終わります。

○議長 辻本 一夫君

以上で、萩原議員の一般質問は終わりました。